

「教育臨床総合研究20 2021研究」

臨床・カウンセリング体験におけるC系G系の授業実践(8)

— プログラム「わたしの価値観」の効果検討 —

Teaching Practices of Counseling and Group Approach Program
in “Experience Area of Clinical & Counseling Psychology (8)
— Research the effects of the program “My sense of Values” —

西留太郎* 足立智昭**
Taro NISHIDOME Chiaki ADACHI

要 旨

本論文では、コロナ禍における授業の再編のためにC系G系に新たに取り入れた「私の価値観」プログラムの授業構成の報告と授業後の感想のレポートの分析を行なった。学生の感想は21のサブカテゴリからなる、9つのカテゴリに分類された。自己理解や他者のその人らしさの発見、多様性への気づきなど、C系G系の授業目的に則した、感想が記述されていた。価値観の多様性について体験的に知ること、続くC系・G系プログラムへの効果的な導入になっていることも示唆された。また、一部の学生は学校現場で生じる価値観の衝突について想像し、感想を記述しており、学校現場における価値観の扱いという観点を学生に与えるワークであることが示唆された。このような体験は教育実習の事前学習としても有意義である。今後、多くの学生がこういった気づきを得ることができるよう、発問や授業進行の工夫を検討していきたい。

〔キーワード〕 臨床・カウンセリング体験、C系G系、価値観、多様性、オーセンティックセルフ

I はじめに

本報告では、「1000時間体験学修」の中の「臨床・カウンセリング体験Counseling & Group Approach」(以下C系G系)の授業に、2020年度新たに取り入れた学生の価値観に関わるワーク「わたしの価値観」を、どのようにC系G系の中に位置付けし実施をしたか、また、その中の体験が学生にとってどのような意義があったのかを感想レポートの記述から考察することを目的とする。

まず、足立ら(2009a, 2009b) および足立(2014)は、C系G系の授業実践は、知識やスキルの習得と同時に、「体験」を通した自己理解や他者理解を基盤とした自己成長への取り組みの

*雲南市教育支援センターおんせんキャンパス

**島根大学教育学部附属教育支援センター

場とすることが目的であるとしている。また、それぞれの授業実践で構成される場合は、さまざまなワーク等による体験的な実習活動を通し、心理臨床・カウンセリングの知見・技術等を背景に、相手の気持ちを理解し、相手の気持ちに添った関わりができる技能や態度（カウンセリング・マインド）を育成することを主たる目的にして、何名かの講師により運営がされてきた（岩崎ら，2009 三嶋ら，2009）。

さらに、G系の授業は以下の3点を目標としている（センター編テキスト，2010）。

- ① 自分に与えられた課題について、他者の意見を受容しながら、自分の意見を主張できる（協力・協働性の醸成）。
- ② メンバーの行動や感情を理解しようとする態度を持ち、その言動の背景を想像して相手の気持ちに近づく（共感・想像力の活性）。
- ③ 学級集団形成にかかわる知識や技能を習得する（問題解決力・学級経営の習得）。

前述のような目的を持ったC系G系の授業だが、2020年度は新型コロナウイルス（COVID-19）の流行に関わる感染予防の対応として、前年度まで行っていた身体接触を含む体験学習のプログラムの見直しを行う必要が生じた。プログラムの数セッションの変更を検討する中で、本報告で扱う「わたしの価値観」のワークの授業案を作成することとした（表1）。

表1 G系プログラム一覧

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
変更前	オリエンテーション	偏愛マップ	印象形成	10wishes	アクションメソッド フリーズフレーム	クリエイティブ絵画 (CIPS)	わらじ物語	プレイシアター 制作	プレイシアター 発表	振り返り
変更後	オリエンテーション (オンデマンド)	偏愛マップ	印象形成	10wishes	クリエイティブ絵画 (CIPS)	わたしの価値観	わらじ物語	プレイシアター 制作	プレイシアター 発表	振り返り オンデマンド

「わたしの価値観」のワークは先述したG系の目的の2番目にある、メンバーの行動や感情を理解しようとする態度を持ち、その言動の背景を想像して相手の気持ちに近づくこと（共感・想像力の活性）を大きな狙いとし、自他の言動の背景にある個人の価値観に触れることができるようなワークになるよう設計した。加えて、G系のプログラム上で「わたしの価値観」の次に、他者との納得いく合意（コンセンサス）を形成するコミュニケーション体験を行う「わらじ物語」の授業を行うことを鑑み、他者との納得いく合意（コンセンサス）が必要であるということの前提として、個人の価値観の違いについて体験することも目的として授業の構成を行なった。つまり、個人の価値観がそれぞれ異なっているという前提を持ち対話を行うことで、他者の発言その発言の背景を考えながら、相互に納得のいく合意を作り上げるという体験に繋げたいという狙いがあった。

本報告では、上記のような経緯で新しくプログラムに追加した「わたしの価値観」ワークが、C系G系の授業コンテンツとしての目的に適用のか、また、本授業に参加した学生にどのような学びを提供できる可能性があるのかを検討する。

II 「わたしの価値観」授業の構成

以下には「わたしの価値観」の授業の構成を記述する。本学のカリキュラムに合わせ、授業は100分の設定にしたが、10回の連続授業の講義の1回なので、冒頭10分程度は出席の確認と前回の内容の振り返りにあて、ワーク自体は正味90分の実施とした。

1. 授業の目的

- ① 自分が何を大切にしているかを考えることで、自己の価値観の在り方を知り、自己理解を深める。
- ② 自己理解をもとに、他者の価値観に対する許容的な態度で他者理解へとつなげる。とした。

2. 教具

- ① 価値観カード（1セット84枚）1枚に抽象名詞1語とその簡単な説明が書いてあるもの82枚、白紙（ワイルドカード）2枚（MINTウェブサイトを参考）。
- ② 価値観リスト 価値観カードに書いてある82の抽象名詞の一覧。内容は、①の価値観カードと同様（原井弘明の公開情報を参考）。
- ③ 6つの質問（ターシャ・ユーリック『Insight』を参考）。
- ④ 感想レポート用紙。

3. 手順

パート1：価値観トランプ

パート1は、価値観について考える導入として、カードゲームの体裁をとった。学生が山札からランダムに引いたカードや他者の捨て札からカードを引くことで、普段の自分の意識の枠組みの外にある抽象名詞も自分が手札に残したカードと照合して、吟味できるようにした。また、他者が自分の大切なものを取ろうとした時にそれを守るルールを設けることで、自分が何を大切にしているかを感じやすくした。パート1は導入として価値観の輪郭を感じることや、自分に大切にしていることやそうでもないものがあることをゲーム形式で体験できることを重視した。

以下にパート1の手順を示した。

- ① 4人一組になる（人数によっては5人一組でも可）。
- ② メンバーに価値観カードのセットから1人に5枚のカードを配る。配ったカードは他のメンバーに見えないようにする。残りのカードは全て裏向きで重ねて置く（山札）。
- ③ 順番を決めて隣の人のカードを1枚引く。ただし、カードを引かれる人は、そのカードが自分に当てはまる価値観だった場合4回まで断ることが出来る。
- ④ 引いた人はカードが6枚になるので1番自分に必要ない、もしくは、合わない価値観カードを自身の手前の場にオープンにして捨てる（捨て札）。その時「私は〇〇を捨てます」と宣言する。
- ⑤ カードを引かれた側は手持ちが4枚になるので、場の伏せたカード（山札）か、場のオープンにしたカード（捨て札）を1枚選択して手持ちに加える。

- ⑥ 上記1～5を5回繰り返す。
- ⑦ 最後に手札に残ったカードが当座の重要な価値観だということが分かる。
- ⑧ プレゼンテーション1：ゲームが終わったら何故このカードを選んだか、可能であれば5枚の優先順位とその理由をメンバーに発表する。メンバーはフィードバックをする。

パート2：自己の価値観を知るための6つの質問

パート2は学生がパート1で感じた自分の価値観の輪郭に関わるエピソードを、ワークシートに記入することでふりかえるパートとした。自分の価値観が過去経験によって形成されていること、時間による変化があること、また、他者の価値観にもその背景となる経験があることなどを体験できるように設定した。

以下にパート2の手順を示した。

- ① 個人内作業で、ワークシート「自己の価値観を知るための6つの質問」（表2）について、言語化してみる。
- ② プレゼンテーション2：メンバーへ6つの中のうち語ってもいい1つの質問について発表する。メンバーはフィードバックをする。

表2 価値観を知るための6つの質問（ターシャ・ユーリック2019）

1. あなたはどんな価値観で育てられましたか？ 現在の自分の思考体系は、それらの価値観を反映しているものですか、それとも育てられた価値観とは違う視点で世界を見ていますか？
2. 幼い頃や思春期における最も重要な出来事および経験は何ですか？ それらが自分の世界観にどう影響を与えましたか？
3. 学校や職場や私生活で、どんな人たちを一番尊敬していて、その人たちのどんなところを尊敬していますか？
4. 一番尊敬していないのはどんな人で、なぜそんな風に思いますか？
5. これまでで最高（最悪）の先生・上司は誰ですか？ そう思うのは、その先生・上司が何をしたからですか？
6. 自分の子供を育てたり、他人を指導するにあたり、一番伝えたいのはどんな行動で、一番伝えたくないのはどんな行動ですか？

パート3：価値観リスト

パート3では、パート1・2を踏まえて、学生が価値観リスト（表3）から自由に自分の価値観にフィットする抽象名詞を選び、自分の現段階の価値観を言語化するパートとした。自分が選んだ抽象名詞とそれを大切に思う理由をグループで共有することで、その人らしさや自他の違いについて体験するパートとした。

以下にパート3の手順を示す。

- ① 個人作業として、82の価値観リストから、自分にとって大切な価値観のワードをチェックする。その中から最も大切な価値観のワードを5つ選択する。リストにない場合には、自身にフィットする価値観ワードを作ってもよい。
- ② プレゼンテーション3：5つのワードは、「これは私の価値観です。そして、この価値観に見合う行動が、私を私らしく輝かせます」という観点から、何故このカードを選んだかをメンバーに発表する。メンバーはフィードバックをする。

表3 価値観リスト(カード)に使用した抽象名詞の一覧

1	受容:ありのままの自分を受け入れてもらう	22	興奮:スリルと刺激に満ちた人生を送る	43	平安:自分の内面の平和を維持する	64	現実:現実的、実践的にふるまう
2	正確:自分の意見や信念正しく伝える	23	貞節:パートナーにウソをつかず誠実に生きる	44	親密:プライベートな体験を他人とシェアする	65	責任:責任をもって行動する
3	達成:なにか重要なことを達成する	24	名声:有名になって存在を認めれる	45	正義:すべての人を公平に扱う	66	危険:リスクを取ってチャンスを手に入れる
4	冒険:新しくワクワクする体験をする	25	家族:幸福で愛に満ちた家庭を作る	46	知識:価値ある知識を学ぶ、または生み出す	67	恋愛:興奮して燃えるような恋をする
5	魅力:身体的な魅力を保つ	26	体力:丈夫で強い身体を保つ	47	余暇:自分の時間をリラックスして楽しむ	68	安全:安心感を得る
6	権威:他者に対して責任を持って指導する	27	柔軟:新たな環境にも簡単になじむ	48	寵愛:親しい人から愛される	69	受諾:ありのままの自分を受け入れる
7	自治:人まかせにしないで自分で決める	28	許し:他人を許しながら生きる	49	愛慕:誰かに愛をあたえる	70	自制:自分の行動を自分でコントロールする
8	美的:身のまわりの美しいものを味わう	29	友情:親密で助け合える友人を作る	50	熟達:いつもの仕事・作業に習熟する	71	自尊:自分に自信を持つ
9	庇護:他者のめんどろをみる	30	愉楽:遊んで楽しむこと	51	現在:いまの瞬間に集中して生きる	72	自知:自分について深い理解を持つ
10	挑戦:難しい仕事や問題に取り組む	31	寛大:自分の物を他人にあたえる	52	適度:過剰を避けてほどよいところを探す	73	献身:誰かに奉仕する
11	変化:変化に富んだバラエティ豊かな人生を送る	32	真実:自分が正しいと思うとおりに行動する	53	単婚:唯一の愛し合える相手を見つける	74	性愛:活動的で満足の良い性生活を送る
12	快適:喜びに満ちた快適な人生を送る	33	信教:自分を超えた存在の意思を考える	54	反抗:権威やルールに疑問を持って挑む	75	単純:シンプルでミニマルな暮らしをする
13	誓約:絶対に破れない約束や近いを結ぶ	34	成長:変化と成長を維持する	55	配慮:他人を心づかって世話すること	76	孤独:他人から離れて1人でいられる時間と空間を持つ
14	慈愛:他者を心配して助ける	35	健康:健やかで体調よく生きる	56	開放:新たな体験、発想、選択肢に心を開く	77	精神:精神的に成長し成熟する
15	貢献:世界の役に立つことをする	36	有益:他人の役に立つこと	57	秩序:整理されて秩序のある人生を送る	78	安定:いつも一定して変化のない人生を送る
16	協調:他者と協力して何かをする	37	正直:ウソをつかず正直に生きる	58	情熱:なんらかの発想、活動、人々に深い感情を抱く	79	寛容:自分と違う存在を尊重して受け入れる
17	礼儀:他者に対して誠実で礼儀正しく接する	38	希望:ポジティブで楽観的に生きる	59	快楽:良い気分になること	80	伝統:過去から受け継がれてきたパターンを尊重する
18	創造:新しくして斬新なアイデアを生む	39	謙遜:地味で控えめに生きる	60	人気:多くの人に好かれる	81	富:金持ちになること
19	信頼:信用があって頼れる人間になる	40	笑い:人生や世界のユーモラスな側面を見る	61	権力:他人をコントロールする	82	世界平和:世界の平和のために働くこと
20	義務:自分の義務と責任を果たす	41	独立:他者に依存しないで生きる	62	目的:人生の意味を方向性を定める		
21	調和:周囲の環境と調和しながら生きる	42	勤勉:自分の仕事に一生懸命取り組む	63	合理:理性と論理に従う		

表4 わたしの価値観指導案

開始	終了	所要時間(分)	展開	ねらい	教示等
13:00	13:03	3	出席確認		
13:03	13:05	2	前回振り返り	感想レポートが講師に読まれていることを意識する	前回の感想レポートについてコメント
13:05	13:10	5	導入：テーマ、授業の目的の確認	「価値観」についてイメージ喚起する	・良い悪い、正解不正解はないことを伝える ・人に押し付けない、人から出た意見を否定しないことを徹底する
13:10	13:15	5	グループ分け、移動		4人(5人)1組 ナンバーコール 1~5の番号でグループを分ける
13:15	13:20	5	ルール説明 見本グループで実演する	ポーカージョーカーのルールがわかる	・1人5枚 手札を配る → 残りは伏せて山札 ・順番を決める。1番の人から時計回りに進行する ・左隣の人の手札から1枚引く ※引かれる人は自分にとって大事なカードを守ることができる(4回まで) ※カードに書いてある説明に拘らなくて良い、自分が抽象名詞から連想するイメージで判断して良い ・引いた人は手札が6枚になるので自分にとって大切でないカードを1枚捨てる「捨てる時は私は〇を捨てる」と宣言する ※捨て札は表にして自分の前に置く ・ひかれた人は伏せてある山札か、他の人が捨てた捨て札から1枚補充し、左隣の人の手札から1枚カードを引く →5回繰り返した時点で手札に残った5枚を一旦の自分の価値観とする ※カードの中には、白紙のワイルドカードが2枚含まれる。ワイルドカードには自分の好きな抽象名詞を自分で入れて良い
13:20	13:35	15	・カードゲームを行う ・結果をワークシートに記載し、グループで共有する	価値観の輪郭を感じることや、自分に大切にしていることやそうでないものがあることをゲーム形式で体験する	・早く終了しているグループはプレゼン1へ進む ・長いグループは時間になったら、その時点での価値観をプレゼンする
13:35	13:45	10	プレゼン1 ワークシートの内容をグループ内で共有しあう	お互いの価値観を知る、人それぞれの感覚が異なっていることを感じる	・相手の意見を否定しないことを再度確認する ・カードの名詞だけでなく、選んだ理由を伝える ・可能な限り5枚の中に順位をつけ発表する
13:45	13:50	5	過去想起の導入	ワークシート記入をスムーズにする	・6つ全ての質問について記入しなくて良い ・記入できるところから、記入する
13:50	13:57	7	ワークシート記入	価値観に関連するエピソードなどを想起する	
13:57	14:05	8	プレゼン2 自分の価値観に関わるエピソードをグループ内で共有し合う	お互いの価値観の背景にあるエピソードを共有し合い、自他の価値観の形成プロセスを考える	1人2分程度、記入したところのうち共有できる一つか二つのエピソードを共有する
14:05	14:12	7	抽象名詞のリストをから自由に自分の大切にしたいものを選ぶ	今の時点での自分の価値観を表現する	
14:12	14:32	20	プレゼン3 今の時点での自分の価値観を言語化し、グループ内で共有する	人それぞれの価値観が異なっていることを感じる	1人3分程度で発表する
14:32	14:40	8	感想レポート記入		

III 感想レポートの分析

以下には、2020年度「わたしの価値観」の授業に参加した学生の感想レポートの分析の結果を記述した。

1. 分析手順

分析対象は、2020年度前期にG系を受講した2年生3クラス分、61名のレポートとした。感想レポートの「今回のセッションでの感想は?」「価値観と過去経験の関連について気づいたことは?」という2つの自由記述に対する回答を、筆者らが必要に応じて意味内容で区切り、記述データとした。レポートに通し番号を付番し、レポート内での意味内容の区切りごとにa, b, cとアルファベットをふり、それらを記述のIDとした。それにより183の記述データを抽出した。抽出したデータをKJ法(川喜田1967)の方法をもとに分類し、21の中カテゴリと9の大カテゴリを得た。表5に、カテゴリの一覧と各カテゴリの定義、代表的な記述を記載した。

表5 感想レポートのカテゴリ分析

大カテゴリ	中カテゴリ/定義	代表的な記述
自己発見	自分を振り返る機会 定義：自分に対する振り返りの機会を得た。という意味内容の記述。そのうち、具体的に自身の価値観に触れていない記述	自分のことを振り返ることがたくさんあった。 自分の過去を振り返ったり、他人に共有したりしてみても、自分の一面や考え方を見直すことができた
	未知の自分発見 定義：自身の振り返りや、価値観の検討を通して、今まで気づけなかった自分の考えに気づいた、セルフイメージに変化があったという記述	最初は自分の中に確固たる価値観なんがあるのだからかという思いで、今回の活動に取り掛かった、しかし活動していく中で自分の内面と向き合っていくうちに自分にも聞けないものがあることに自分で気がついた 普段何気なく生活している中で、しっかりとした価値観を持ちながら生活していることがわかった
	自分らしさの発見 定義：自分の価値観に対して、改めて自分らしさを感じたり、他者へ自身の価値観を共有したりし合う中で、自分のらしさを感じたという記述	価値観を選択するという行為はとても悩める行為であった。それだけ自分は理想というものを持っていることがわかった。 自分の価値観を出す際に迷うことなく決めることができた。これは自分のこれまでの人生で価値観が確立してきたということだと思う
	自身の価値観の質低下 定義：現段階の自身の価値観を記述していた記述	他者との関わりについてはあまりピックアップしていないが、その前提となる自分の生活を整えることでその先のことも大切にできると思っている 自分は独立したい気持ちが高い。自分自身を良くと考えると良い作品を作ることはできない。物事を客観的に考えようとしている
他者発見	相手からの学び 定義：自分と価値観の異なる他者と出会いを求める姿勢や、違った価値観の相手の語りから感じ取った内容の記述	ほかの人の価値観も聞くことができ、それぞれの背景や信念が伝わってきたので、自分とは違う視点で物事を見ているのだとわかり、とても参考になった。 他の人の価値観を聞いて、共感したり新たに取入れたいとおもった
	他者のその人らしさの発見 定義：価値観の共有や相手との対話から、他者のその人らしさを感じたという内容の記述	他の人の価値観を聞いていて、その人の性格や雰囲気を選んで価値観に出ているなと感じました 今までのセッションの中で一番相手を探知することができたセッションだったように感じる。その人らしさがとても表れていた。
対話の楽しさ	価値観を語りあうことの楽しさ 定義：価値観についての対話自体を楽しみ、対話自体にわくわくするという記述	普段の生活の中で、価値観を表現する場は少ないので、とても良い時間だった。本当の自分は見た目言葉で表現できないと思う。だからこそ今回の時間はとても大切だった 自分とは違う価値観を持つ人がたくさんいることがわかった。もっとその人のことを知りたいし、これからどんな人に出会うことができるかわくわくする
価値観の多様さとそれに関わる態度	価値観の多様さへの気づき 定義：人によって価値観は多様である。価値観の多様さや複雑さに気がついたという記述	班の中でみんなそれぞれ価値観が違って、こんなにも違うんだと少し不思議に感じた 自分や他人の価値観の違いや多様性について理解することができた
	他者尊重 定義：価値観の多様さに気がついた上で、他者の価値観を否定しないこと、価値観の異なる他者を受け入れることの大切さについての記述	人の価値観というのは自分とは違うことがほとんどのためそれを否定するのはなく、理解することが大切だと思った 人の捨てたカードや持っているカードを見ても私と真逆の場合もあった。それを見て、人とぶつかることは当たり前だったし、押し付けたりしないと言うことの大切さを感じておぼろげにわかった。
	アサーティブネス 定義：価値観の多様さに気がついた上で、自分の価値観も他者の価値観もともに大切であるという記述	自分は大切で、しかし場面によっては他人を大切にすることも大切だし、自分を主張していくことも大事だと、矛盾していくこともあるので、とても難しいと思いました 自分の価値観も人の価値観も大事にしながら、自分もほかの人も大切に好きになれるようにしていきたい
価値観の形成プロセスに関しての気づき	親や家族、育ちの影響 定義：自身の価値観の形成に関わる家庭環境についての記述	自分の選んだ観点をほかの人たちには選択していなかったりと、育ってきた環境によって価値観が変化すると気づいた 親からの教えが今の自分の価値観を作っていると感じた
	他者との出会いや関わりの影響 定義：自身の価値観の形成に関わる記述の中で、特に先生や親との出会いについての記述	これまでの自分がどのような人と出会ったかと言うことによって、今の自分ができているのだなと思った 礼儀悪い人はいやと思うことで自分は礼儀を大切にしようと思うように、体験に基づく価値観もあることがわかった
	自分自身の経験の影響 定義：自身の価値観の形成に関わる自身の経験、特に人との出会い以外の記述	価値観は絶対ではなく経験に従って更新できることが大切だと感じた 過去経験が現在の価値観に影響していると感じた。これから先もどんどん変わっていくと感じた
	ネガティブな過去経験の想起 定義：振り返りの中で、ネガティブな出来事を想起していると思われたり、過去についての後悔を記述	昔よく、やらない罪をなすりつけられたり、話を聞いてもらえず未受けたりした経験があり、こういうことをなくそうと人の話を聞いたり、人のために何かをして、そもそもトラブルを無くそうと考えようになったのかと考えた。 自分の価値観が幼少期からの経験に基づいて形成されていることをしり、自己主張をもう少ししておけば良かったと後悔した。
価値観を振り返ることで考えた目標	抽象的な目標 定義：価値観の振り返りや他者との共有から、これから先の目標やこうしたいという願望についての記述のうち、自身の価値観との関連が曖昧だったり、抽象的な目標についての記述	自分として成長することを忘れず生きていきたいと感じた。 あまり気負わずにこれからも自分の価値観を磨いていきたいと感じました
	自分の価値観と照らし合わせた目標 定義：価値観の振り返りや他者との共有から、これから先の目標やこうしたいという願望についての記述のうち、自身の価値観や他者の価値観を踏まえて記述しているもの	一番大切だなと思ったのは信頼で、信頼されるためには何をしたら良いかわからないけど、それを探りながら人生を送るのも楽しいなと感じた。 自分の価値観について考える機会は切っけだったけど、今日考えてみると、自分の性格通りの価値観過ぎて、もう少し自分に厳しくできるようになりたいと思いました
学校現場への言及	価値観と教員の仕事について 定義：学校現場で働く自分を想像して、教員の仕事と自身の価値観や、価値観の多様さとの関連についての記述	人の価値観を受け入れる尊重することの大切さにも気づいた。それを学校でどう活動していくかを考えることも重要だと思った もし自分が教員になったらとき子供たちの価値観に影響を与えられるか不安を感じた
	不安や懸念 定義：学校現場を働く自分を想像したさいの、不安感や懸念についての記述	価値観や判断基準に矛盾がある教師はよろしくないと思うので、指導の時に割り切ることも必要だと持った。
ワークでの不安全感	価値観を選ぶことの難しさ 定義：ポーカーのワープで感じた難しさについての記述	ゲームでは選ぶ際に悩むことが多くあり大変だった。 大切な価値観を5つに絞るのは難しかった。
	価値観を伝え合う難しさ 定義：価値観を共有し合う場面で感じた難しさについての記述	絶対に他人を否定しないと言う環境でないとできないかも 自分自身のことを相手に伝えることはできたが、本当に価値観を伝えられたかは疑問が残った。自分の価値観が人を傷つけてしまわないか、他人が間違っていると言ってしまうのではないかと考えてしまった。
その他	グループ全体に対する気づき 定義：関わったグループメンバーについての気づき	パート1でメンバーが何と何を比較してカードを捨てているかとても気になった みんな私の価値観はそれぞれであったが、共感できるものばかりだった。価値観が似ているのかなと感じた。ぶつかり合うことが想像できなかった。
	コメント 定義：その他授業に対するコメント	とても興味深いセッションだった。 とても充実した時間だった。

2. 各カテゴリの構成

① 大カテゴリ「自己発見」

中カテゴリ1は「自分を客観視する機会」とした。自身に対する振り返りの機会を得たという意味内容の記述のうち、具体的に自身の価値観に触れていないもので構成した。中カテゴリ2は、「未知の自分発見」とした。自身の振り返りや、価値観の検討を通して、今まで気づけなかった自分の考え方に気づいた、セルフイメージに変化があったというもので構成した。中カテゴリ3は「自分らしさの発見」とした。自分の価値観に対して、改めて自分らしさを感じたり、他者へ自身の価値観を共有したりし合う中で、自分らしさを感じたという記述によって構成した。中カテゴリ4は「自身の価値観の言語化」とした。感想レポートに現段階の自身の価値観を記述していたものによって構成した。

1～4の中カテゴリから「自己発見」という大カテゴリを構成した。

② 大カテゴリ「他者発見」

中カテゴリ5は「相手からの学び」とした。自分と価値観の異なる他者と出会いを求める姿勢や、違った価値観の相手の語りから感じ取った内容の記述から構成した。中カテゴリ6は「他者のその人らしさの発見」とした。価値観の共有や相手との対話から、他者のその人らしさを感じた。という内容の記述から構成した。

5、6の2つの中カテゴリから「他者発見」という大カテゴリを構成した。

③ 大カテゴリ「価値観を語り合う楽しさ」

中カテゴリ7は「価値観を語り合う楽しさ」とした。価値観についての対話自体を楽しみ、対話自体にわくわくするという記述によって構成した。カテゴリ7はそれ以外に関連する中カテゴリがなかったので、単独で大カテゴリとした。

④ 「価値観の多様さの発見とそれに関わる態度」

中カテゴリ8は、「価値観の多様さへの気づき」とした。人によって価値観は多様である。価値観の多様さや複雑さに気がついた、という記述から構成した。中カテゴリ9は、「他者尊重」とした。価値観の多様さに気がついた上で、他者の価値観を否定しないこと、価値観の異なる他者を受け入れることの大切さについて記述されたもので構成した。中カテゴリ10は、「アサーティブネス」とした。価値観の多様さに気がついた上で、自分の価値観も他者の価値観もともに大切であることを記述したもので構成した。

8～10の中カテゴリから、「価値観の多様さの発見とそれに関わる態度」という大カテゴリを構成した。

⑤ 大カテゴリ「価値観形成プロセスへの気づき」

中カテゴリ11は、「価値観への親や家族、育ちの影響」とした。自身の価値観の形成に関わる家庭環境についての記述から形成した。中カテゴリ12は「価値観への他者との出会いや関わりの影響」とした。自身の価値観の形成に関わる記述の中で、特に先生や親との出会いについての記述から形成した。中カテゴリ13は、「価値観への自分自身の経験の影響」自身の価値観の形成に関わる自身の経験、特に人との出会い以外の記述をしたもので構成した。中カテゴリ14は、「ネガティブな過去経験の想起」とした。振り返りの中で、ネガティブな出来事を想起していると思われたり、過去についての後悔を記述したりした

もので構成した。

11～14の中カテゴリから、「価値観形成プロセスへの気づき」という大カテゴリを構成した。

⑥ 大カテゴリ「価値観を振り返ることで得た目標」

中カテゴリ14は、「抽象的な目標」とした。価値観の振り返りや他者との共有から、これから先の目標やこうしたいという願望についての記述のうち、自身の価値観との関連が曖昧だったり、抽象的な目標を記述したりしているもので構成した。中カテゴリ15は、「価値観と照らした目標」とした。価値観の振り返りや他者との共有から、これから先の目標やこうしたいという願望についての記述したもので、自身の価値観や他者の価値観を踏まえて記述しているものから構成した。

中カテゴリ14と15から「価値観を振り返ることで得た目標」という大カテゴリを構成した。

⑦ 大カテゴリ「学校現場への言及」

中カテゴリ16は、「価値観と教員の仕事について」とした。学校現場で働く自分を想像して、教員の仕事と自身の価値観や、価値観の多様さとの関連を記述したものによって構成した。中カテゴリ17は、「教員になったときの不安や懸念」とした。学校現場を働く自分を想像したさいの、不安感や懸念を記述したもので構成した。

カテゴリ16と17から、「学校現場への言及」という大カテゴリを構成した。

⑧ 大カテゴリ「ワークで感じた不安全感」

中カテゴリ18は、「価値観選ぶことの難しさ」とした。トランプのワークで感じた難しさについての記述から構成した。中カテゴリ19は、「価値観を伝え合う難しさ」とした。価値観を共有し合う場面で感じた難しさについて記述したのから構成した。

中カテゴリ18と19から、「ワークで感じた不安全感」という大カテゴリを構成した。

⑨ 大カテゴリ「その他」

中カテゴリ20は、「グループ全体に関する気づき」ワークで関わったグループメンバーについての気づきの記述から構成した。中カテゴリ21は、「コメント」とした。授業全体の感想のコメントから構成した。

中カテゴリ20と21を「その他」という大カテゴリとした。

IV 考察

本報告はC系G系の授業における、「わたしの価値観」ワークがC系G系の目標と合致した授業となっていたのか、また、この授業が学生にとってどのような学びとなっているのかを検討することを目的としていた。

1. 感想レポートから抽出されたカテゴリと授業の目的との関連

まず、「自己発見」、「他者発見」の大カテゴリにあるような記述内容は、

- ① 自分が何を大切にしているかを考えることで、自己の価値観の在り方を知り、自己理解を深める

② 自己理解をもとに、他者の価値観に対する許容的な態度で他者理解へとつなげるという本授業の目的に適うものであった。多くの学生が、いずれかの記述を行っていた。

次に、学生の感想の分析から抽出されたカテゴリのうち、大カテゴリ「価値観の多様さとそれに関わる態度」に属する「価値観の多様さへの気づき」「他者尊重」「アサーティブネス」は、C系G系が目的とする、共感・想像力の活性、すなわち、メンバーの行動や感情を理解しようとする態度を持ち、その言動の背景を想像して相手の気持ちに近づくことと関連が深い。他者の言動の背景について想像力を働かせるには、そこに異なる前提があることを意識しないと難しい。「わたしの価値観」の授業はそれを体験することができるプログラムになっていると思われる。

また、「価値観の形成プロセスに関しての気づき」として、学生が記述してくれたように、授業のプロセスの中で、言動の背景にある価値観の共有に加えて、その価値観の背景にある過去経験を共有しあうという体験を設けたことで、言動の背景にあるものについて学生に実感を持ってもらうことができたと考えられる。

さらに、「価値観の多様さとそれに関わる態度」のカテゴリに分類されたような態度は、協力・協働性の醸成、すなわち、自分に与えられた課題について、他者の意見を受容しながら、自分の意見を主張できることも関連が深い。グループワークを共にするメンバーが自分と異なる価値観を持っているかもしれないと気づいていることは、グループワークの活性における少数意見の肯定にもつながる。また、「他者尊重」や「アサーティブネス」という他者と関わる態度はともに、グループワークにおける対話をより安全なものにしてくれる。どちらもグループワークという協働を円滑に進めてくれることに役立つ。加えて、特に「アサーティブネス」の中に分類されたような、他者の意見も自身の意見もどちらも同様に大切であるという態度は、この授業の次に実施する、異なる意見をすり合わせる合意形成のプロセスを体験する「わらじ物語」の授業において重要な態度である。

以上から、「わたしの価値観」の授業はG系のプログラムの目的、C系G系の授業全体の目的いずれにも合致した体験を学生に提供できたと考えられる。一方で、「価値観の多様さへの気づき」について記述をした学生は多くいたが、「他者尊重」や「アサーティブネス」に関わる記述をした学生はそれよりも少なかった。今後は、より多くの学生が上記のような学びを得るために、学生への発問やフィードバックの構成、授業の進行については改善の余地がある。

2. 学校現場における価値観の影響オーセンティックセルフとの関連から

加えて、少数であったが、ワークで感じた価値観の多様さや、振り返りを通して確認した自身の価値観と将来の教員としての仕事とを関連づけてレポートを書いてくれた学生もいた。

大カテゴリ「学校現場への言及」に属する、「価値観と教員の仕事について」「教員になったときの不安や懸念」として分類された記述がそれにあたる。それぞれの記述は子どもたちの多様性に教員としてどう関わるか、自らの価値観を押し付けず、伝えるべきことを伝えるためにはどうしたらいいのか、教員という仕事が子どもの価値観に影響を与えることへの気づきと自分にそれができるのか、どうやったらそれがうまくいくかといった不安、自身の価値観と指導の葛藤の予想についてなどであった。これらの気づきと不安や懸念は教育現場において、非常

に重要なものであると考えられる。

竹西ら(2015)は教員自身の価値観とそれに紐づく教員の言動と学級集団経営や児童の自己概念の形成との関連をオーセンティックリーダー、オーセンティックリーダーシップという観点から検討している。オーセンティックリーダーとは、自己形成の過程を経て築きあげた本来の自分(オーセンティックセルフ: authentic-self)を自覚し、その自分を偽ることなく行動に反映させることによって、フォロワーにポジティブな影響をおよぼすリーダーを指すとしており、教員のオーセンティックリーダーとしてのリーダーシップが学級のフェアネスを高め、児童生徒と教員の信頼関係に促進的な影響を与えるとしている。また、教員がオーセンティックであることは、児童の自己概念の形成にも関連があり、教員がオーセンティックであることは児童のオーセンティックセルフ形成に関与する可能性があるとしている。

このように、一部の学生が授業を通して感じた、自身の価値観が将来の自分の学級の児童生徒に影響を与えるのではという気づきは、学校における児童生徒、教員の価値観の扱いをいかにするかという問いと捉えることもでき、非常に重要なものであったと考えられる。このような気づきとその言語化、それに関わる対話を教育実習前の時期に体験できることは、学生にとっても重要なことであると考えられる。

3. 新しい教育のあり方と教員養成課程における価値観についての対話の可能性

ところで、令和3年1月に出された、中央教育審議会答申では、令和の日本型教育の柱として、個別最適な学びと協働的な学びが位置づけられた(文部科学省2021)。また、2020年学習指導要領の改定では、学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力、実際の社会や生活で生きて働く知識や技能を3つの重要な資質能力として、それらを育むために、主体的・対話的な深い学びとしてのアクティブラーニングの重要性が示されている(文部科学省2020)。

今タームの授業に参加した学生はこのような新しい教育のあり方を実践する立場であり、おそらく多くの学生が自身の受けてきた教育とは異なる形を実践していくことを求められる事になると思われる。筆者らは、このような学校現場の過渡期的状況の中でよりよく機能するためには、C系G系が目標とする、自分に与えられた課題について、他者の意見を受容しながら、自分の意見を主張できるということが重要であると考えられる。さらに、学校現場では、一人一人が専門職である教員集団の中においてや、チーム学校という枠組みの中でSC、SSW、医療機関、福祉関係者といった分野の違う専門家などと、多様で高度な協働が求められる。そういった中で、自身の意見や判断とその背景にある価値観について自覚的であって、自分の意見や判断について、なぜ自分がそう思うかということを表示し、対話的に協議できることが非常に重要であると考えられる。

以上の点から、「わたしの価値観」と「わらじ物語」の連続する2つのワークは学校現場に必要な協力・協働性の醸成のために非常に有意義な体験であると考えている。今後は、授業が単なる体験の場に終わらず、上記のような目的を学生に伝え、学生が自身の課題意識として、協力・協働性を捉えられるような場ができるよう、発問やフィードバック、授業の進行を改良していくなど、大いに改善の余地がある。

V 引用・参考文献

- 足立 智昭, 岩崎 貴雄, 三嶋 朋子, (2009a). 臨床・カウンセリング体験領域におけるC系・G系の授業実践(1) — プログラム・オーガニゼーションと効果測定の検討 —. 『島根大学教育総合研究2009 Vol.08』 島根大学教育学部附属教育支援センター研究紀要
- 足立 智昭, 岩崎 貴雄, 三嶋 朋子, (2009b). 臨床・カウンセリング体験領域における授業実践(2) — 臨床マインド行動チェック目録の作成と実施 —. 『島根大学教育総合研究2009 Vol.08』 島根大学教育学部附属教育支援センター研究紀要
- 足立 智昭 (2014). 臨床・カウンセリング体験領域におけるC系G系授業実践の歩みと検証. 教育臨床総合研究 特別号島根大学教育学部附属教育支援センター研究紀要
- 岩崎 貴雄, 足立 智昭, 三嶋 朋子. (2009). 臨床・カウンセリング体験領域における授業実践(4) — アンケートの質的分析による効果測定の試み — 『島根大学教育総合研究2009 Vol.08』 島根大学教育学部附属教育支援センター研究紀要
- 川喜田二郎. (1967) 『発想法 — 創造性開発のために』 中公新書 原井宏明の情報公開・HARAI Hiroaki Repository. <https://www.harai.co.jp/>
- 三嶋 朋子, 足立 智昭, 岩崎 貴雄. (2009). 臨床・カウンセリング体験領域における授業実践(3) — バウムテストからみた学生の変化 —. 『島根大学教育総合研究2009 Vol.08』 島根大学教育学部附属教育支援センター研究紀要
- 文部科学省 (2010). 生徒指導提要
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm
- 文部科学省 (2020). 中央教育審議会答申. 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す, 個別最適な学びと, 協働的な学びの実現～ (答申) (中教審第228号)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm
- MINT webサイト. Motivationalinterview.org. <http://www.motivationalinterview.org/>
- 島根大学教育学部附属教育支援センター編 (2010) 『臨床カウンセリング体験領域 Counseling & Group Approach』 改訂版3版, 明和印刷
- 竹西 亜古, 竹西 正典, 森下 里美 (2013). ライフイベントトレイルを用いたオーセンティックリーダーシップの検討. 兵庫教育大学 研究紀要 第43巻 2013年9月 pp.131-140
- 竹西 亜古, 竹西 正典, 森下 里美 (2015). 学級担任のオーセンティック発話と児童の自己概念および自己開示との関連. 兵庫教育大学 研究紀要 第47巻 2015年9月 pp.95-107
- ターシャ・ユーリック (2019) 『インサイト insight』 英治出版